

大型商業店舗空きビルを多機能複合型ビルに再生した取組 (北海道富良野市)

【支援措置】

地域・まちなか商業活性化支援事業補助金(中心市街地再興戦略事業)のうち先導的・実証的
事業 経済産業省 [国費率 2/3]
特定民間中心市街地経済活力向上事業計画に係る経済産業大臣認定 経済産業省
[上限額2.5億円まで嵩上げ]

【支援措置対象経費】

748百万円

2つの商店街に面する市の重要商業地点において発生した、大型商業店舗の空きビルをTMO(ふらのまちづくり株)が取得し、「観光・滞在・食」をキーワードに『フラノマルシェ』及び『ネーブルタウン』に続く「第3のまちの縁側(滞留拠点)」として空きビル再生を実施する。中心街の空きビルを放置することは、周辺商店街にマイナス波及を引き起こすことから、これを未然に防止するため「公益的ディベロッパー」としての実績と経験値が豊富なふらのまちづくり株を事業主体とすることで、スピード感のある事業展開を実現した。

本事業は、平成28年3月に閉店し、空き店舗ビルとなった「三番館ふらの店」を特定民間中心市街地経済活力向上事業計画に係る経済産業大臣の重点支援事業の認定を受け、公民連携による事業推進を図った。その大きな特徴として、①外国人観光客(インバウンド)を対象とした、多言語対応の宿泊施設、飲食店、ショップ、カフェ、Wi-Fi拠点等の施設整備によるリノベーションを実施したこと。②長期滞在型・多言語対応の観光インフォメーションの充実と、この司令塔的役割を担う「ふらの版DMO」の活動拠点を整備したこと。③富良野・美瑛広域観光圏のランドオペレーター機能を持つ多言語対応観光情報発信拠点と、関連企業、行政部局が入居するシェアオフィスを備えた複合施設を整備したことである。

こうして平成30年6月1日にオープンし、初年度における施設利用者は、市民や観光客含め約13万人の利用実績であり、この内、簡易宿泊施設『トモール』は約1万3千人が宿泊しており、インバウンドのまちなか受け入れ拠点として機能している。このことは、中心市街地の夜間人口の増加や近接商店街の賑わい創出に寄与しているところであり、これら「まちの縁側(滞留拠点)」を増やすことにより、「点から線、線から面」への波及効果を生み出している。

【計画書の事業名】 フラノ・コンシェルジュ整備事業



(整備前)



(整備後)

<簡易宿泊施設トモール>



<シェアキッチン>

